

2021年度 学校評価総括表 伊丹市立荻野小学校

教育目標			笑顔あふれ 明日も行きたい学校 ～かしこく あたたく たくましく 自立して生きぬく児童の育成～				
重点目標			○支持的風土の学級づくり ○学習指導の充実(確かな学力の向上) ○規範意識の高揚と生活習慣 ○体力の向上 ○防災・安全教育の徹底 ○開かれた学校づくりの推進				
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ・自ら考え、伝え合う力を育む。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・漢字・計算の小テストを単元ごとに繰り返し実施する。 ・学年に応じた復習プリント(計算・文章題・国語の読み取り問題)を取り入れ、継続的に学習する。 ・校内研修としてすべての教員が年一回以上授業を公開する。 ・児童の実態を把握し、学年ごとに基礎学力の定着を目的とした補充を行う。 ・授業の中でのめあてを明確にするとともに、児童が振り返る時間を設定する。 ・ICT機器を活用し、工夫した授業づくりに取り組む。 ・じっくり棚を利用し、復習や自主学習に取り組む。	・漢字・計算の小テストの正答率を80%以上にする。 ・全ての教科において、積極的に話し合い活動を取り入れていく。 ・学校全体として授業力向上に取り組んでいく。(すべての教員が年一回以上の授業公開)	A	・単元の中で1時間のめあてが明確になり、児童にとってわかりやすい授業を行うことができた。 ・感染予防にかかる制約が多い中、工夫して授業研究に取り組むことができた。 ・授業では教員が意識して、積極的に話し合い活動を取り入れることができた。 ・朝学習や授業始めの短時間を利用して、継続的に復習に取り組むことができた。 ・ICT機器を活用し、工夫した授業づくりができた。 ・じっくり棚のプリントを利用して自主学習に取り組む児童が増えた。また、低学年に関しては教師が選択し、復習場面等で効果的に活用することができた。 ・基礎の反復練習の時間を確保しても、それ以上に定着に時間が必要で、定着が不十分な部分がある。	・引き続き授業中のめあてを明確にし、わかりやすい授業づくりに取り組んでいく。 ・学年に応じた反復学習を学年毎に揃えて取り組んでいく。 ・スクールタクトなど、導入されたICT機器やシステムを効果的に活用できるよう、研修や実践を行っていく。 ・効果的な機器の導入と、再配置を検討する。	・引き続き職員研修を積極的に行い、効果的なICT機器の活用、授業力向上に取り組んでほしい。 ・学年に応じた反復学習の内容や時間の確保を行っていただきたい。
	読書活動の充実	・朝読書の時間を設けたり、子どもが意欲的に読書に親しむ環境を整えたりすることによって、読書量を増やす。 ・PTA・地域の方々の読書ボランティアを活用する。 ・全校一斉の朝読書の時間を週一回設ける。 ・教員も児童と一緒に読書する。 ・読書ボランティアの方を増やすために、学校だよりや学級懇談会などで呼びかける。 ・保護者への啓発。(家庭学習の際に読書を行い、保護者から必ずサインをもらう) ・発達段階に合わせた読書指導をする。(図書だより・本の紹介・読み聞かせ・読書カード・読書カレンダー・学級文庫の充実など) ・本を読みやすい環境を整え、めあてを持たせて、読書できるように指導する。 ・図書委員会の活動を活性化する。(図書委員会からおすすめの本の紹介を掲示。)	・児童アンケートにおいて、「本を読んでいる(週3回以上)」を80%以上にする。	C	・単元学習において、読書にひらく学習が多く、児童が図書に触れる機会を増やすことができた。 ・図書委員の活動(本の紹介、ビンゴなど)が工夫されて行われており、図書室へ行ったり、本を開いたりする児童が増えた。 ・担任が読み聞かせをしたり、一緒に読書する機会を増やすことができた。 ・学校では読書に取り組めていても、家庭では読書以外の刺激も多く、読書をする習慣がなかなか身につけていない。 ・学級文庫の交換、整理が十分に行えなかった。	・児童、保護者への啓発として、図書だよりを引き続き発行していく。 ・読書ボランティアや図書委員会の活動を、引き続き積極的に行っていく。 ・借りた本を家に持ち帰る声かけをしっかりと行う。(特に高学年) ・担任が本の紹介や読み聞かせをしたり、図書の時間に一緒に読んだり借りたりする。 ・児童が読みたい本の購入、学級文庫の整理、本の紹介を充実させる。 ・現在設定されている朝読書に加えて、読書の時間を設定する。(読書タイムを拡大する)	・昨年度も低い評価であったが、今年度もC評価であることから、重点的に取り組まなければならないのでは。 ・朝読書の時間に、遅刻等で揃わないクラスがある。ほかの時間に設定するなど考えてはどうか。 ・タブレットに触ることが増えたため、読書する時間が減っている。読書時間の確保に取り組んでいただきたい。 ・保護者の方から、本に触れさせる声かけも必要。 ・高学年は、朝読書の15分で完結できる短編集を紹介し、15分以内で読み切れるようにするのはどうか。また、他学年においても、5分で読み切れるお話や本の提供を進めていくのも良いのではないかな。
	学習意欲の向上	・学習の場の工夫をした授業づくりに取り組む。 ・テーマを与えたり、しっかり取り組めた児童を評価したり紹介したりし、学年の発達段階に応じた自主学習の方法を、身につけさせる。 ・家庭学習に対して保護者への呼びかけを積極的に行う。 ・家庭学習の目標時間に合う課題を提示する。 ・高学年では、教科担任制の運用により、統一した指導や個々の特徴を伸ばせるようにする。	・学習形態・ワークシート・学習手順(ふきだし法など)・発問・板書・ICT機器の活用など、学習意欲の向上を目的とした工夫を取り入れる。 ・家庭学習の目標時間(10分×学年+20分)を達成させる。	A	・全ての教職員が、わかりやすい授業に取り組み、97%以上の児童が工夫した授業だと考えている。 ・ICT機器の活用や、単元の目標を共有した学習の計画等、児童の学習意欲を向上させる工夫を行うことができた。 ・家庭学習に児童が取り組んでおり、保護者からも肯定的な回答が得られた。 ・教科担任制により、指導面では一定の効果が得られた。しかし、運用面での課題が残った。	・学習の場の工夫に関する研究を進め、どの子も意欲をもてる授業を作っていく。 ・アナログとデジタルのすみ分けを明確にし、全体で共有する。その上で、デジタル機器を活用していく。 ・児童が家庭での学習に取り組みやすいよう、手本を示したり、テーマを与えたりする。 ・家庭学習の手引きを簡潔にし、保護者と子どもによりわかりやすくする。 ・家庭学習の取り組みについて目標を保護者と共有するため、年度初めに説明したり、学年通信で啓発したりする。	・アナログとデジタルのすみ分けを行っていただき、引き続き取組を進めてほしい。 ・学習の手引きも引き続き取り組んでいただきたい。
	特別支援の推進と充実	・校内支援体制の確立 ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の活用 ・ともに認め合い、支え合う学級・学校づくり ・月に1回の校内委員会や必要に応じてケース会議を開き、個に応じた支援体制・方法を実施していく。 ・低学年で、ひらがな・カタカナ・計算の確認テストを行い、実態を丁寧に把握し、担任と連携しながら支援に活かす。 ・個人データ(スズキ校務)、サポートファイル、個別の指導計画を活用し、個に応じた支援につなげる。 ・児童理解に努め、どの児童も安心して生活できるクラス作りに取り組む。 ・すべての教職員が、インクルーシブ教育や授業のユニバーサルデザイン化について理解を深める研修を学期に1回以上実施する。	・教職員アンケートにおいて「効果的に機能している」「意識しながら授業・学級・学校作りを進めた」の項目で回答した割合を80%以上にする。 ・児童アンケートにおいて「声かけや手助け」の項目で回答した割合を80%以上にする。 ・個別の指導計画を年2回見直し、評価を行う。	A	・校内支援体制が効果的に機能し、個に応じた支援ができた。 ・生活指導部会や関係機関と連携して取り組むことができた。 ・児童理解に努め、どの児童も安心して生活できるクラス作り、授業作りに取り組むことができた。 ・サポートファイル、個別の指導計画を活用し、職員の共通理解と個に応じた支援につなげることができた。 ・共に認め合い支え合い学級作りに取り組んだ結果、児童・保護者アンケートの結果が80%を上回った。 ・インクルーシブ教育、特別支援教育についての保護者への更なる啓発が必要。	・ひろがりやまなびでの様子をクラスで伝えたり、学校だよりなどで発信していく。 ・異学年交流を通して、支援が必要な児童への理解を深める。 ・研修会等で学んだことを、校内で共有する場を持ち、日頃の支援に生かしていく。	・特別支援教育に関わり、知る先生が増えたことは、大切なことである。引き続き、支援が必要な児童への理解と発信を徹底していただきたい。

豊かな心・健やかな体	「命の大切さ」「相手を思いやる心」の育成	・「心の教育」を推進する。 ・自尊心を育む。	・教師が児童ひとりひとりのがんばったところやよいところを見つけ、声かけを行う。 ・児童が互いに認め合う機会を設ける。 ・心の匠や外部人材を積極的に招聘し、心の教育を推進する。 ・毎年人権参観を行い、保護者に啓発する。 ・道徳の教科書を持ち帰り、家庭で話し合う機会を設ける。	・児童アンケートで「自分によいところがある」を80%以上にする。 ・児童アンケートで「自分や友だちを大切にしている」を90%以上にする。	A	・外部人材を積極的に招聘し、楽しく学べる機会を多く設けた。 ・子ども達の活躍の場もあり、多様な学びの場を保障できた。	・児童アンケートで「自分によいところがある。」の高学年の否定的な回答をした児童の割合を減らしていきたいので、今年度取り組んできたことを来年度もより丁寧に続けていく。	・高学年の肯定的な回答を増やしていくため、今年度の取組を継続して行っていただきたい。 ・子どもたちが活躍する場を積極的に設けていただきたい。また、子どもの得意なことやよさをわかる教職員であってほしい。
	いじめや不登校、問題行動に迅速に対応	・情報を全職員で共有し連携して、継続性・系統性のある指導をおこなう。 ・問題行動のある児童に対して、生活・行動・学習面に関わる支援をおこなう。	・配慮を要する児童について、職員全体で情報を共有し、学校全体でいじめや不登校の未然防止に努める。 ・いじめのアンケートを3回実施し、児童の悩みに敏速に対応する。 ・関係機関と積極的に情報を共有する。 ・性暴力についての職員研修を行う。 ・情報モラル研修を実施し、互いを思いやる素地を養う。	・児童アンケート「学習や遊びでだれとでもなかよくしようとしていますか」の肯定的回答を90%以上にする。 ・保護者アンケート「生活指導に関するもの」の肯定的回答を90%以上にする。	A	・職員全体で児童について共通理解することができた。 ・外部の関係機関と連携して、早い段階で児童に合った指導や支援ができた。	・情報モラルに関する授業を低学年から行っていく。	・インターネットに書いたことは、半永久的に残るので、その危険性を子どもたちに教えていただきたい。保護者啓発も必要である。 ・対面で伝えることの重要性を指導していただきたい。自分の言葉の責任を教えていただきたい。
	健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる	・家庭と協力して健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる。	・長期休業明け1週間生活リズムチェック表をつけて、学校の生活リズムに早くなれるようにする。 ・規則正しい生活ができるようにポスターや保健だよりで呼びかける。 ・1週間生活リズムチェック表を基に、個別指導にあたる。 ・新しい生活様式に合わせた、保健指導を行う。 ・委員会の呼びかけを通して、保健指導内容を教員や児童に周知する。 ・朝の健康観察を継続して、自身の健康に留意させる。	・生活リズム表提出率90%をめざす。 ・児童アンケート「早寝・早起き・朝ご飯」において、80%を超える。	A	・児童アンケート「早寝、早起き、朝ご飯」において80%を超え、前年度より高かった。 ・早寝、早起き、朝ご飯で、どの項目ができていないのかターゲットをしぼって指導する必要がある。 ・生活リズムチェック表の提出率が高くなった。 ・手洗い動画が、全学年の先生が登場し、評判だった。	・アンケート後に、結果を受けた指導や講話を取り入れる。 ・手洗い動画は、年度初めに更新する。	・生活リズム表の期間は、頑張れているので、取組は継続していただきたい。
	体力の向上	・体力づくり ・スポーツを楽しむ心を養う	・新しい生活様式に合わせて、外遊びを推奨していく。 ・体育の授業を通して、身体を動かす楽しさを味わわせる。 ・ワークシートや活動例集の活用、自主研修を実施し、指導力向上に努める。 ・荻野っ子体操や、荻野スポーツの日の取り組みを通して、身体を動かす機会を増やす。	・児童アンケートの結果で「運動することが好き」の割合を85%以上にする。	B	・「運動することが好き」の割合が86%で目標を達成した。 ・指導力向上のための研修が少ない。	・領域をしぼって、計画的に自主研修、研修を行う。 ・おぎのっこ体操を日常的に活用していけるように呼びかける。	・「体力＝学力」である。コロナ禍における体力の低下だと思われるが、自主研修・研修を行い、子どもたちの体力向上に努めていただきたい。

開 か れ 信 頼 さ れ る 学 校	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを年間12回以上、毎月発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・学校行事の案内を地域に配布する。 ・学校の生活全体の様子を個人情報に留意しながらHPや学校だよりで積極的に公開する。 ・HPのおしらせ欄(新規)で、災害時の対応や行事中止等の連絡を発信していく。	・学校だよりを年間12回以上、毎月発行する。 ・学校のホームページを月3回以上更新する。 ・学校行事の案内を配布する。	A	・保護者から「学校公開」において、コロナ禍での制限がある中で、一定の評価を得ることができた。 ・コロナ禍で行事が制限されている中でも、学校ホームページの公開など随時更新し、学校情報の積極的な発信を達成できた。	・「HPについては、こまめな更新が、閲覧数増加につながる。引き続き、学校の情報を伝えていただきたい。」という意見があったので、これを継続していきたい。 ・コロナ禍で制限されている公開を増やしていくなど、工夫をしたい。	・オンライン参観授業は環境的に顔出しができない児童もいるので、今年度のように時間を制限した参観等を行っていただきたい。 ・地域へのお便りも継続していただきたい。 ・授業よりも先生の人となりが見たいという思いもある。定期的な学校公開をお願いしたい。
	安全安心な学校作り	・事故・犯罪・災害などに対する対処法や回避法に関する教育を行い、危機対応能力を育む。	・年4回の避難訓練・集団下校訓練を行い、訓練に合わせて自分の身の守り方についての指導を行う。 ・教職員対象に夏季研修で不審者対応訓練及び研修を行う。 ・3・4年生で行う自転車教室や保健、特別活動の時間を利用して啓発冊子・DVD等を使って自転車の乗り方の指導を行う。 ・交通安全や災害について、家族で話し合えるようプリントを配布する。	・児童アンケートにおいて「自転車に乗るときに交通ルールを守っている」「避難訓練のとき、きまりを守って自分で避難できる」を回答する割合を90%以上にする。 ・保護者アンケート「家庭で、緊急時の避難や不審者に出会った時の対応について子どもと話し合っている」を <u>90</u> %以上にする。	A	・コロナ禍に対応した避難訓練をできることをできる範囲で行うことができた。 ・登下校の歩き方のルールが課題。	・指導すべき点を徹底して伝える。(教職員の安全指導) ・特別活動の時間を活用して、啓発冊子・DVD等を使って自転車の乗り方の指導を再度行う。 ・下校時に教職員が下足まで一緒に下りて声かけし、児童の様子を気にしてみるようにする。	・下校時に道いっぱい広がって、自由に歩いている児童がいる。斜め横断や突然駆け出す等があるので、しっかりと安全指導を行っていただきたい。 ・通学路の環境(枝が道路にはみ出ている等)は、自治会を通して、呼びかけていく。
	楽しい学校生活に向けての取組	・すすんであいさつをし、廊下を正しく歩く。 ・学校行事等に進んで参加する。 ＜・地域行事への参加＞ ・異学年同士が交流し合う場を設ける。	・児童会(委員会)を中心に、あいさつや廊下の歩き方を呼びかける。 ・はじめましてタイム・ふれあい週間・ふれあいタイムを年1回実施し、異学年の交流を行う。 ＜・なわとび大会、盆踊り、グランドゴルフ、地区運動会などへの積極的な参加を呼びかける。＞	・児童アンケートで「あいさつができている」を85%以上にする。 ・児童アンケートで「廊下を正しく歩けているか」を85%以上にする。 ＜・児童アンケートで「学校行事にすすんで参加できている」を85%以上にする。＞	B	・児童アンケートで「あいさつができている」の割合が85%を上回った。 ・児童アンケートで「廊下を正しく歩けているか」の割合が85%を上回った。 ・あいさつや廊下の歩き方の呼びかけについて、委員会活動を中心に取り組んでいるが、各クラスでの声かけが課題。	・あいさつについて、引き続き委員会で取り組んでいく。 ・廊下の歩き方の呼びかけは、折に触れ学級指導していただくとともに、委員会などでも機会を作りたい。	・挨拶できるのは、児童のよいところである。引き続き、取り組んでいってほしい。

学校関係者評価総括
荻野小学校の教育活動は概ね良好である。家庭や地域が学校に目を向け、子どもたちが将来戻ってくる地域の学校として、学校の情報を積極的に発信するとともに、家庭や地域と連携し、子どもたちが荻野っ子らしく、元気に遊び、のびのびと育つ安心安全な学校づくり、つながり認め合える関係づくりを推進してほしい。
次年度に向けた重点的な改善点 ①家庭・地域と連携し、基本的生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立を図る ②体力の向上をさらに進める ③ともに認め合い、支え合う学級・学校作りに取り組む

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った